

6-1. アーバンデザインスクールの開講

松山まちづくりの担い手育成を目指して

羽鳥剛史（副センター長）・片岡由香（ディレクター）

1. はじめに

2014年11月末より、松山市のまちづくりの担い手育成を目指して、「アーバンデザインスクール」を開講した。このスクールは、学生から一般市民まで、まちへの思いを持った幅広い世代が集い、参加者自らが柔軟な発想と方法によりまちづくりを企画・実践する中で、まちづくりの進め方を学んでいく、市民参加型・体験型の学習プログラムである。具体的には、地域の方々との交流を深めつつ、まちづくりの企画からワークショップやまちづくり活動の実践に至るまで、まちづくりに関わる一連のプロセスを体験し、まちの歴史や文化に根ざした、松山市ならではの魅力的なまちづくり活動につなげていくことを目指している。

2. スクールの基本理念～学びの視点～

本スクールでは、以下の基本理念に則り、まちづくりの学びの場を創出することを目指している。

- ① まちの「楽しみ型」を学ぶ。
- ② まちづくりの「学び型」を学ぶ。
- ③ まちづくりの「活動」を実践する。

第1に、参加者は、まちの「担い手（＝楽しませる人）」と「ファン（＝楽しむ人）」の2つの立場を体験し、双方の視点を折り合わせながら、松山市ならではの多様で恒常的な（一過的に終わらない、自己満足に終わらない）「まちの楽しみ型」を発見することを目指す。

第2に、参加者は、「いかにしてまちづくりを学ぶことができるのか」を自分自身で考え、その方法を実践しながら、自分達でワークショップやレクチャー等の発案・企画・運営に取り組む。こうした自主設計型の学習プログラムを通じて「まちづくりの学び型」を体得していく。

第3に、本スクールでは、単なる提案だけに留まらず、地域における具体的な「活動」の実践を一つのアウトプットとして捉え

ている。こうした実践活動を通じて、松山市が魅力的で誇りある街に一歩一歩近づくこと——そうした将来への発展に僅かなりとも、しかし着実に貢献することを目指している。

3. スクールの体制

アーバンデザインスクールの開講にあたっては、愛媛大学の羽鳥剛史・片岡由香、松山大学の河内俊樹、聖カタリナ大学の徳田剛、松山東雲女子大学の直井玲子の4大学5教員で話し合いを重ね、スクールの目的や進め方を定めた。そして、アーバンデザインセンターの開設に伴って、4大学の学生及び広く一般の方々を対象に本スクールの第1期生を募集したところ、合計34名の申し込みがあり、本スクールが始動した。

本スクールの実施体制を図1に示す。スクール生は、各自の興味のあるテーマに基づいてグループに分かれ、各グループでの話し合いを通じて、まちづくりの企画や実践に取り組んでいく。アーバンデザインスクール運営委員会は、上述の4大学5教員から構成されており、本スクールを運営すると共に、まちづくりの基本的な進め方を指導し、スクール生の活動をサポートする。また、本スクールを進めるにあたっては、松山市都市デザイン課にご協力頂くと共に、松山市のまちづくりにおいて活躍されている方々に「まちなかスクールアドバイザー」に任命し、適宜、スクール生にアドバイスを享受頂くこととしている。

4. スクールのプログラム

本スクール初年度は、2014年11月から2015年8月まで、図2のプログラム（今後の予定を含む）に沿って、松山アーバンデザインセンターにて隔週（一回約2時間）で行うこととしている。本プログラムは、大きく前期（2014年11月～2015年3月）と後期（2015年4月～8月）に分かれており、前期では、講師によるレクチャーやワークショップを通じて、まちづくりの基本的な進め方について

理解すると共に、まちの課題を発見し、その課題解決に向けた「プログラム企画書」（自分達でどのようなことが出来るのか）を作成し、後半の進め方について発案してもらう。後期では、前期で作成した「プログラム企画書」を基にして、それぞれのテーマについてワークショップやまちづくり講座を受講者自身が開催しつつ、まちづくり活動を実践していく。

5. これまでの取り組み

2014年11月21日の本スクール開講日には、スクール生が一堂に会し、松山市に対する思いやまちづくりへの意気込みを語り合った。そして、11月29日には、アーバンデザインセンター周辺のまちなかを皆で歩いて回り、そこで発見したことを発表し、まちなかの魅力や課題について話し合った。その後、各講師より、マーケティングの視点からのまちづくり（河内俊樹, 2014年12月5日）、演劇ワークショップを活かしたまちづくり（直井玲子, 2015年1月9日）、災害ボランティアとまちづくり（徳田剛, 2015年1月23日）に関わるレクチャーを受けて、多様な観点からまちづくりのあり方や方法について学んだ。このレクチャーと同時に、スクール生は、自分達の興味のあるテーマについて話し合い、テーマごとにまちづくりを進めていくためのグループを構成した。現在、『香りを活かしたまちづくり』『食と文化のまちづくり』『道後まち歩き』『アートのまちづくり』等、チャレンジングなテーマを掲げて、プログラム企画書の作成に取り組んでいる。今後、本プログラムの前半の締めくくりとして、この企画書の内容を基にして、自分達でどのようなまちづくり活動を行っていくかを一般の方々に宣言するプレゼン会を開催し、実際にまちづくり活動を開始する後半に突入する予定である。

スクール生は、まちづくりの難しさを日々感じつつも、仲間達と共に、松山市の魅力向上に向けて熱意をもって取り組んでいる。皆様、スクール生の今後の取り組みに是非ご期待頂きたい。



写真1. スクールの様子

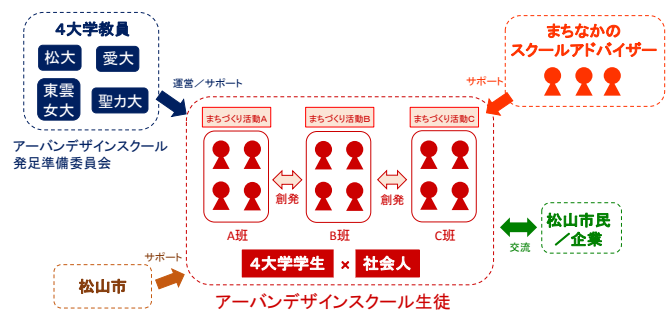


図1. アーバンデザインスクールの体制

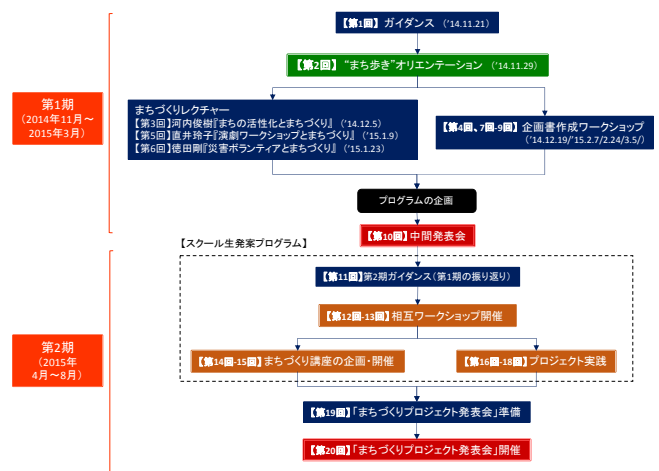


図2. スクールのプログラム